

1. 活動報告（事務局 記）

—12月7日（土）餅つき準備として、午前中に洗米をし、午後に、テント張り、テーブル設置、板・紙張り、餡子の丸め、台唐・臼・バーナー・釜・蒸し器・餅つき機などを用意しました。参加者は、二俣瀬センター長、会員家族1名、会員19名でした。

—12月8日（日）稲作体験の収穫祭として、二俣瀬ふれあいセンターにて餅つきをしました。挨拶・説明の後、安全祈願をして、三つのグループに分かれて、出来上がった餅を丸めて次々と仕上げていきます。餅は、自動餅つき機・杵うち・台唐で搗きました。参加者には、各自1パックづつお土産として渡しました。参加者は、二俣瀬子ども会21名（親10名、子11名）、親子自然観察隊28名（親12名、子16名）二俣瀬小学校校長他2名、宇部市関係者平山理事他2名、環境コミュニティ浮田理事長、見学者6名、会員家族3名、会員24名の計89名でした。

—12月9日・10日 草原ゾーンの整備を臨時作業として延べ5名で行いました。水車廃材の焼却処理・旧水車の腕木にて溜池部の護岸・水路の溝上げ等を行いました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

—12月28日（土）維持活動・年末懇親会

—1月5日（日）正月休み

—1月18日（土）維持活動（エコアップ）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「 2019 年気付き 」 (原田満洲夫 記)

今年も色々ありました。ビオトープを維持管理していく中で特に今年の特記事項を挙げてみたいと思います。

- 1、 原田賢治 2 代会長の急なご逝去で総会時 3 代目の会長として当原田満洲夫が継ぐことになりました。
- 2、 「里山ビオトープ二俣瀬」を平成 12 年に創設し来年度は 20 周年を迎える事になっているがビオトープのシンボルの大水車が破損しこれを修復することになりました。その為の資金集めにプレイベントと本イベントの開催を理由に助成金を 2 年越しで要請しました。
- 3、 水車の修復をするための見積もりを取った所我々つくる会の会員でかなりの部分の工事を行う事になりビオトープの維持管理を減ずるとともに活動日数を増やしてこれに当たりました。
- 4、プレイベントとして水車の修復の一部(特に金属部分と軸受け部分)を行うとともに「稲作体験」の稲刈りを収穫祭—1 としてレベルアップして例年より多い参加者を得て実施しました。
- 5、会員の維持管理活動は月 3 回の活動日を多く増やしたものの、参加者がおおよそ決まった少ない参加と高齢化による能力の減少等で維持活動が限界になってきたと感じました。会員の若返りを含む募集を考え口コミでもっと積極的に誘うべきと思います。

5. 親子自然観察隊 「 収穫祭・解隊式 」 (菅 哲郎 記)

親子自然観察隊今年最後のイベント、稲作体験収穫祭(餅つき)と解隊式を 12 月 8 日(日)に二俣瀬ふれあいセンターで行いました。お天気は上々、昨年よりは暖かな気温でみんなのびのびとお餅つきを行いました。観察隊の親子、子供会の親子、ビオトープ会員、市の関係者をはじめゲストを合わせ 90 名近い参加をいただきました。(宇部市：平山環境政策理事ほか・環境コミュニティー・二俣瀬小学校・市議員・来客者)

今年は地区行事と重なり、子供会の出席が少し少なかったようで、その分子供たちの仕事が増えましたが、大変良く働いてくれました。上級生は餅つきにも慣れ、餅の丸め作業のほか自動餅つきの作業にも参加し手伝ってくれました。大人もさすがに自動餅つき機の操作を長時間行くと腰が痛くなるようでしたが、子供たちの助太刀にやはり助かったようです。

9 時から安全祈願祭を行ってスタートした餅つきも、自動餅つき機・杵うち・台唐(だいがら)で行いました。「台唐での餅つき」はたぶんここでしか見られないと思われます、3 俵(180 kg)の餅つきも思ったより早く無事終了し、親子全員と参加者にそれぞれ 1 パックのお餅が配られました。そのあとで親子自然観察隊の解隊式が行われましたが、今年から解隊式の前に「生物多様性クイズ」を宇部市環境政策課の担当者からいただき、親子で楽しみました。昼前には解隊式も終り、事故もなく無事今年の行事を終了しました。今年は思った以上にスムーズにイベントが進み、お手伝いしてくれた会員の方々、本当にご苦労様でした。



(原田会長 挨拶)



(宇部市 平山理事 挨拶)



お餅を丸めます



杵での餅つき



「生物多様性クイズ」を行いました。

親子自然観察隊の感想

★中村しのぶ

春から、多くの方々にお世話になりました。貴重な体験が多く、里山を守って下さっておられる地域の方々に感謝したいと思います。かつては生活の隣に自然があり、当たり前の景色は今は守っていく時代なのだと少し寂しくも感じました。日頃体験出来ない行事に子どもも生き生きしていたと思います。次年度も参加したいと話していました。貴重な体験をありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(46) スズバチ *Oreumenes decorates* (ドロバチ科)

ハチの世界はとても複雑で謎に満ちています。ミツバチやスズメバチなどが良く知られ、人間に役立つハチとして、あるいは人間を襲う怖い存在として認識されていますが、スズバチなどは増えすぎる昆虫を適当に間引いてくれる人間にとって大変有益なハチなのです。

スズバチは「ドロバチ科」に分類されます、ドロバチとは巣を泥と水（唾液）で固めて作るハチのことですが、巣の作り方もそれぞれで、トックリの形に作るハチを「トックリバチ」、スズバチは横長のトックリ状壺を並べさらに全体を泥で覆って壺を隠します。一つのトックリ（部屋）が完成するとトックリの首の部分壊して口をふさぎ、また全体を泥（耐水性の土）で覆ってしまいます。トックリ状の巣をつくるドロバチとしては日本最大です。

体長 18～30mm、日本全土に分布します。幼虫のエサとしてシャクガの幼虫を狩ります。ドロバチは主に蛾の幼虫を狩りますし、ジガバチ類も蛾の幼虫を狩ります。変わり種としてはゴキブリを獲物にするセナガアナバチ科のハチや、バッタ・キリギリス類を狩るアナバチ科、アブを狩るギングチバチやクモを狩るクモバチなどもいて、興味は尽きません。

獲物を捜すハチは良く動き、なかなか写真撮影させてくれませんが、ねばって何とか写真に収めることができました、



スズバチのドロ団子づくりの様子

スズバチかは不明ですが、ドロバチの巣と
思われます。桜の枝に作られていました。



引用・参考文献

田仲義弘、2012. 狩蜂生態図鑑. 192pp. (株) 全国農村教育協会. 東京.
藤丸篤夫、2014. ハチハンドブック. 104pp. (株) 文一総合出版. 東京.

7. 会よりの連絡事項

- 1) 今年度の維持活動も、1月～3月の5回のみとなります。エコアップと補修作業が主体になると思いますが、例年寒くもあり参加者が少なく、作業が捗りません。多くの参加者を期待しますが、雪や寒風にも負けずに奮って参加し、良い年としましょう。

8. 編集後記 (前田 歳朗 記)

スペインで開催されていた COP25 が終了しました。残念ながら、予想通り話し合いがつかず、具体的な結論は出ませんでした。参加国は、自国の利益を優先させたいようです。日本においても、産業界の意向が優先されているようで、その結果、二回も化石賞をいただく結果となりました。

しかし私にも、数多くの反省すべきことがあります。冬になると断熱対策もせず、エアコンやファンヒーターに頼っています。冷蔵庫の中もぐちゃぐちゃで節電効果無し、車も無駄な使い方をしています。努力すれば、温室効果ガス排出量を抑えることが出来るのですが実行していません。これは、先進国といわれる地域に住む、大多数の大人に言えるのではないのでしょうか。

我々中高年が子供の頃は、寒さ暑さに耐え、移動は、冷房のないバス・電車でした。飛行機は夢のまた夢、長距離は夜行列車の堅いシートに座るのが当たり前でした。しかしエアコンに代表される快適装置、車・飛行機という移動手段を手に入れたのです。多くの人々は快適・利便性を手放したくないのです。更に資本家たちは、温暖化対策を口実にして一儲けしようと躍起になっています。このような大人達に代わり、期待できるのは若者たちです。

先日、二俣瀬小学校の授業に参加させていただきましたが、子供たちの生態系に対する関心の高さに驚きました。私が子供だった時代、このような授業はありませんでした。未来を引き継ぐ子供達、若者に地球の現状を学んでもらい、議論を行い、結論を導き出してもらいたいと思います。しがらみがこびりついた大人達は、若者たちの意見を真摯に受け入れると共に、快適な地球を残すために知恵を働かすべきではないのでしょうか。